

---

# 遊戯王 転生者の生きる道

流星

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

遊戯王 転生者の生きる道

### 【Nコード】

N4279W

### 【作者名】

流星

### 【あらすじ】

突然トラックが突っ込んできて死んでしまった主人公。

そんな主人公が神によって遊戯王の世界に転生し、原作に介入する。  
(これはアニメを元にしています。)

## ブローグ

視点???

???「ブラック・マジシャン・とブラック・マジシャン・ガールでプレイヤーにダイレクトアタック!」

???「だからガチデッキはやめるー!」

???「よし、ってもうこんな時間だ。はやく帰らないと。」

はじめまして、星井遊佳です。デュエルが大好きな中学1年生です。つて誰に言っただろう。それよりはやく帰る。

少し歩くと、眺めの良い場所があった。

遊佳「やっぱりここが一番落ちつくな。」

そう呟くと同時に後ろからトラックの音がきこえた。

そしたら突然意識が途切れてしまった。

## ブログ（後書き）

はじめまして流星です。

初めての投稿なので感想やアドバイスをお願いします。

## 第1話　なんで転生？（前書き）

こんにちは。

今回はデュエルはありません。

## 第1話　なんで転生？

視点遊佳

遊佳「こ、ここは？」

ここは、何処かの空間？

????「あ、あの〜。」

遊佳「お前は誰だ、ここは何処だ、あたしはどうなったの、そしてここから今すぐ出して、そして二度とあたしの目の前に出てこないで。」

????「一気に質問しないでください。そして最後のはなんなんですか!!」

遊佳「そのままの意味なんだけど。」

一体この馬鹿はなんなんだ。

????「誰が馬鹿ですか！誰が!!」

遊佳「あんただよ。それに誰だよあんた。いいかげんに名乗りなさいよ。」

????「私は、神です。」

遊佳「PI　もしもし、警察ですか？今日の前に神と名乗る変人が「わあああー!!」何してるんですか！PI　「チッ！」

神?「何舌打ちしてるんですか！それに私は、本物の神です。」

本当にこのひト「神です!!!」この自称神野郎はなんなんだ。

神?「とりあえず本題に入りますね。」

遊佳「本題って、用件は何？5秒以内に言って。」

神?「ごっ、5秒以内は無理です!!」

遊佳「とりあえず何でもいいからはやく用件を言いなさいよ。」

神?「それじゃあ、単刀直入に言います。あなたはこちらの手違いで死んでしまいました。」

遊佳「ふ〜ん。で?」

神?「何か反応がすごく薄い気がするんですけど。」

遊佳「別に。用件はそれだけ？」

はやく帰ってお遊びデッキを作りたいな。そして、フッフ…。

神？「何か変な事を考えているみたいですけど、あなたは転生するので家には帰れませんよ。」

遊佳「えっ、家に帰れないの?。」

神？「なんでそちに反応するんですか！！普通は転生って事に反応してくださいよ！！！」

遊佳「わかったよ。転生先や、特典とか付けてくれるよね。」

神? 「はい、良いですよ。何処でもどうぞ。」

遊佳「それじゃあ勿論遊戯王の世界でね時代は、D.M。特典は、シンクロ、エクシーズなどのカード全てで、カードを実体化出来る能力、あと、チート能力も付けてね。」

神？「分かりました。では、早速行ってきて下さいね。」

遊佳「えっ、ちょっとまってy」  
「それでは、頑張つて下さいね。」

「つて、キャアアアアア——！！」

そこで意識が切れてしまった。

## 第1話　なんで転生？（後書き）

次回はデュエルがあります。

感想などよろしく願います。



## 第2話 早速デュエル！（前書き）

今回はデュエルがあります。

あと、書き方を少し変えてみました。

## 第2話 早速デュエル！

視点遊佳

遊佳「こゝここは。」

はい、2度目のここはです。まあ、ボケはいいけど、

遊佳「マジでやばいかもな。」

場所が分からないから、どうしようもないや。

???「おい、そのガキ！」

振り向くと……誰だろ、知らない人が声をかけてきた。

???「俺とデュエルしろ。」

遊佳「え？」

何でこうなったのかな。まず何で腕にデュエルディスクが付いているわけ。

???「さっさと構えろ！」

とりあえずフルボッコにしよう、うん。

「「デュエル！」」

???「俺の先行ドロ、メカ・ハンターを召喚し、デモンの斧を装備！」

さあ、これで攻撃力は2850だ！俺はこれでターンエンドだ！」

たかが攻撃力2850で何も伏せないとは、こいつ、雑魚だな。でも、いつの間にか集まった人達があの子終わったとか、かわいそうになどとほざいている。

本当になんなんだよ。

遊佳「あたしのターンドロ、天使の施しを発動、3枚ドロし、2枚捨てる。」

雑魚「おいおい、しよっぱなから手札交換かよ。」

煩いな、この雑魚が。

遊佳「墓地の連弾の魔術師とエクストラ・ヴェーラーを除外し、カオス・ソーサラーを特殊召喚。」

雑魚「何っ！まさか天使の施しの時に。」

遊佳「そう、そしてフォーチュン・レディー・ライティーを召喚。」

雑魚「へんつ、やっぱり雑魚モンスターだな！」

遊佳「あまり舐めない方がいいよ。カオス・ソーサラーの効果発動、ライティーを除外。」

雑魚「何をするかと思えば、やっぱりお子ちゃまだら「ライティ

「の効果発動。」何!。」

遊佳「デッキから フォーチュン・レディー・ファイリー を特殊召喚。」

雑 魚「なんだ、大したことじゃな」「ファイリーの効果発動。」何!」

いちいち反応がすごいウザいんだけど。

遊佳「このモンスターが「フォーチュンレディ」と名の付いたモンスターによって特殊召喚されたとき相手モンスターを破壊し、その攻撃力分のダメージを与える。」

雑 魚「なんだと!!」

雑 魚 LP1150

遊佳「手札を1枚捨て クイック・シンクロンを特殊召喚し、レベルを1つ上げ、墓地の レベル・ステイラー を特殊召喚。レベル1の レベル・ステイラー にレベル4の クイック・シンクロンをチューニング。」

「「チューニング!?」」

遊佳「5つの星の力が集まりし時新たな力となる、シンクロ召喚いでよ ジャンク・ウォリアー。」

「???」「な、なんだと!?!」

遊佳「さらに、二重召喚を発動。効果により、もう一度通常召喚が行える。サニー・ピクシーを召喚、レベル6の caos・ソーサラーにレベル1のサニー・ピクシーをチューニング。」

雑魚「まだあんのかよ。」

遊佳「7つの星の光集まるとき新たな希望の光となる、シンクロ召喚輝け エンシエント・フェアリー・ドラゴン。さらに、レベルを1つ下げ レベル・ステイラーを特殊召喚。」

雑魚「あ、ああ。」

遊佳「全モンスターでダイレクトアタック。」

雑魚「うあああああ!!!」

雑魚 L P I 5 2 5 0

なんだー10000行かなかった。まあいいけど。

雑魚「チッ、いいカモだと思ったのに。ほらアンティーとパズルカードだ。」

遊佳「(え?もしかして。)アンティーはいいです。」

雑魚「そうか。まっ、頑張れよ。」

パズルカード貰ったけど、どう考えても、バトルシティ編だよね。どうしようか。

## 第2話 早速デュエル！（後書き）

はい、思いっきりフルボッコにしました。

遊佳「エンシエントは作者がライフ回復に使うから、入れているそうだよ。」

何思いっきり言っちゃってんだよ！まあ、そうなんだけど。あと、守備力が高いから、結構気に入ってるんだよね

遊佳「まあ、作者は置いといて感想などお願いします。」

お願いします。

### 第3話 何でこうなった！？（前書き）

今回は原作キャラが登場します。

うっ、昨日体育祭があつてすごい筋肉痛になってしまいました。

### 第3話 何でこうなった！？

#### 視点遊戯

「デュエル！」

今、城之内君と一緒に最初に行われたデュエルを見ているけど、

克也「なあ、遊戯はどっちが勝つと思う？」

遊戯「さあ、分からないよ。一体どんなデッキを使っているんだろ。」

見ていると、先行で攻撃力2850のモンスターが場に出てきた。

克也「おいおい、あの子供負けたな。」

遊戯「まだ分からないよ。まだあの子は諦めていないみたいだしね。それどころかなんだか呆れてるみたいなんだけど。」

見ていると、天使の施しを利用してカオス・ソーサラーを特殊召喚したりとコンボがすごいや。

克也「何であんなにコンボが出来ているんだ？」

遊戯「すごいね、あそこまでコンボを決めるとは。」

遊佳「このモンスターが「フォーチュンレディ」と名の付いたモンスターによって特殊召喚されたとき相手モンスターを破壊し、その



攻撃力分のダメージを与える。」

克也「なんだよあのモンスターは！！知らないし効果がとんでもねーじゃねーかよ。」

遊戯「たしかにこれはすごいね。僕もあのカードは知らないよ。」

遊佳「レベル1の レベル・ステイラー にレベル4の クイック・シンクロン をチューニング。」

「「チューニング！？」「」」

克也「お、おい遊戯あれはなんなんだ。」

遊戯「いや、僕にも分からない。」

一体なんなんだ。

遊佳「全モンスターでダイレクトアタック。」

雑 魚「うあああああ！！！！」

雑 魚 L P I 5 2 5 0

克也「さ、さすがにやりすぎじゃないか？」

遊戯「そうだね。でも凄いね、あの子。」

大人相手に1ターンキルするなんて。

闇遊戯『相棒、あの子とデュエルしてみたいのか？』

遊戯「（うん、シンクロ召喚がどんなのか知りたいしね。）」

闇遊戯『なら、早く行ってみようぜ。』

遊戯「（うん、そうだね。）」

視点遊佳

今がバトルシティ編だとして、デュエルしてて気がつかなかったけど、やけに背が低い気がするや。

多分、小学生かな。そして、何で禁止カードの天使の施しがデッキにあるわけ！？誰、あたしのデッキをいじったのは！あと、これからどうやって暮らせばいいわけ！？

って、何か手紙みたいなのが落ちてる。なにに、「これを読んだなら無事に転生出来たみたいだね。普通なら生まれる時に転生させるけど、今回は特別に小学3年生として転生させたよ。あと、家のほうは用意したけど、家族はいないからね。ちなみに、家は童実野町にあるからね。」って、家が童実野町なの！

あと、どうして小3なの！？もう、意味不明なんだけど。

遊戯「ねえ、ちょっといいかな？」

遊佳「はい？」

声で何となく予想していたけど、何でAIBOに声をかけられるの！？

もう、何がどうなっているのよ！！

遊戯「どうしたの?」

遊佳「っ! な、何でもありません!」

やばい、つい顔に出ちゃったよ。どうしよう。

遊戯「きみ、名前は?」

遊佳「あ、星井 遊佳です。」

遊戯「僕は武藤 遊戯、よろしくね。」

克也「俺様は城之内 克也だ。」

遊佳「はい、よろしくお願いします、遊戯さん、克也さん。」

って、何でこうなってるの! 今は大変なのに。

???「ふうん、貴様が、シンクロ召喚というのを使うのは。」

遊佳「え?」

遊戯「あれっ、海馬君? どうしたの?」

何故に此处にあのキャベツが居るわけ!?

瀬人「ふうん、うちのデュエルディスクが見たことの無いカードを感知したものでな。」

やばっ、そういえばデュエルディスクはあの社長が作ったんだっけ。

忘れてた。

瀬人「さて、貴様にはいろいろと聞きたい事があるな。まず、どうやってあのカードを手に入れたのだ。答えてもらおう。」

こうなつたらとことん誤魔化してやる。

遊佳「気がついたら持っていました。」

瀬人「何っ、ならばシンクロ召喚について説明してもらおうか。」

なんだ、もっと聞いてくるのかと思ったよ。

遊佳「シンクロ召喚は、チューナーと呼ばれるモンスターと別のモンスターのレベルをあわせ、そのモンスターを墓地に送る事で召喚出来ます。モンスターごとに召喚条件が決まっているのもあります。」

瀬人「ふうん、ならばそのシンクロ召喚、この目で確かめてやる！」

あら、やっぱりこうなっちゃうのね。もうどうにでもなれ。疲れちゃった。

### 第3話 何でこうなった！？（後書き）

はい、何故かこんな事になってしまいました。

遊佳「ねえ、これからあたしどうなるの？」

まあ、今後のお楽しみだよ。

遊佳「死ねねええええ！！！！」

ちよっ、キャラ崩壊してるって、ギャアアアアア！！！！！！

## キャラ設定（前書き）

今回は主人公についてです。

## キャラ設定

名前 星井 遊佳

年齢 転生前12歳 転生後8歳

性別 女

性格 女だが少し男っぽい。相手が誰でもすぐにからかおうとする。気に入らない相手は、ようしやなく1ターンキルをする。切れると誰にも手におえなくなる。

詳細 神に大量のカードを貰い、さまざまなデッキをつくる。家は童実野町にあり、家族はいないが小学3年生として普通に学校に通う。

バトルシティ編に転生し、そこから原作に介入する。

仲間はあまりつくらず、一人でいる事が多い。

恋愛事には興味が無い。

好きな事 デュエル、カード、小説を読む事

嫌いな事 カードを大切にしない人、いかさまをする人、いじめをする人、ナルシストな人

#### 第4話 もう嫌だよ（前書き）

今回は遊佳VS社長です。  
それでは、どうぞ。



## 第4話 もう嫌だよ

視点遊佳

「デュエル！」「デュエル……」

はあ、何故かあの社長とデュエルすることになってしまった。するのはいいけど、

まだ転生したばかりだからデッキが1ターンキル専用のデッキだよ！！

もういいや、思いっきりやってやるよ。

瀬人「俺のターン！ ロードオブドラゴンドラゴンの支配者ー

を召喚！さらに ドラゴンを呼ぶ笛

を発動！俺は効果により ブルーアイズ・ホワイト・ドラゴン を  
2体特殊召喚する。現れよ、我最強の僕 ブルーアイズ・ホワイト・  
ドラゴン ！！」

克也「出た！！海馬のブルーアイズ・ホワイト・ドラゴン！！！」

おいおい、かなりのチートだな。これじゃあの王様やGXの髪型が  
クラゲの十代と変わらないじゃない。

でも、あたしの手札を見ると、苦渋の選択、ワン・フォー・ワン、  
ブラック・マジシャン・ガール、強欲な壺、賢者の宝石、って何で  
魔法カードばかりなのよ！！

苦渋の選択も持っていなかったし、ワン・フォー・ワンだって持っ  
てなかったよ。

あと、しつこいけど何で禁止カードが入ってるわけ！？もう疲れた  
よ。

遊佳「あたしのターン、強欲な壺を発動、カードを2枚ドロ。苦渋の選択を発動。あたしが選ぶのはこのカード、さあ、1枚選んでください。」

ボルト・ヘッジホッグ×2 レベル・ステイラー×3

瀬人「ならば、そのネジを選択する。」

遊佳「（ネジじゃなくてボルトなんだけどな）ならば ボルト・ヘッジホッグを手札に加え、それ以外は墓地に捨てる。ワン・フォー・ワンを発動、手札を1枚捨て、デッキからレベル1のモンスターを特殊召喚する。ボルト・ヘッジホッグを捨てデッキから サニー・ピクシーを特殊召喚する。さらに、墓地の ボルト・ヘッジホッグの効果を発動する。」

瀬人「何っ、墓地からだと！」

遊佳「自分のフィールド上にチューナーがいる時守備表示で特殊召喚出来る。」

蘇れ ボルト・ヘッジホッグ そして、ホーリー・エルフを守備表示で召喚。

さらに、召喚に成功した場合 ワンショット・ブースターを特殊召喚する。

そして、二重召喚を発動。このターンあたしはもう1度通常召喚を行える。

ワンショット・ブースターを生け贄に、ブラック・マジシャン・ガールを召喚。」

「『ブラック・マジシャン・ガールうう!!!!!!』」

みんな本当に息ピッタリだね。それだけ仲が良いのかな。

克也「何で遊戯しか持っていないブラック・マジシャン・ガールを持つてるんだ!？」

遊佳「何で世界に1枚って決めつけるの。他にも持っている人が居るかもしれないじゃない。」

遊戯「まあ、たしかにそうかもしれないね。」

遊佳「デュエル続行、あたしは 天よりの宝札 を発動、手札が6枚になるようにドローする。  
6枚ドロー。」

瀬人「俺は4枚ドローする。」

遊佳「 賢者の宝石 を発動、デッキから ブラック・マジシャン を特殊召喚する。

レベル2の ボルト・ヘッジホッグ とレベル4の ホーリー・エルフ にレベル  
1の サニー・ピクシー をチューニング。」

瀬人「くるか、シンクロ召喚。」

遊佳「世界の輝き集まる時光は新たなる力となる、シンクロ召喚現れよ エンシエント・ホーリー・ワイバーン」

克也「おい、さっきのとは違うやつだぜ。」

遊佳「うん、そうだね。でも、かつこいいや。」

遊佳「サニー・ピクシーの効果発動。このモンスターが光属性のシンクロモンスターのシンクロ召喚に使用された時、ライフを1000回復する。」

瀬人「何っ、1000もだと!」

遊佳 LP5000

遊佳「さらに、魔法カード バグ・ロード を発動。これは、互いの自分のフィールド上に表側表示で存在するレベル4以下のモンスターを選択し、そのモンスターのレベルと同じレベルのモンスターを1体手札から特殊召喚出来る。あたしは ボルト・ヘッジホッグ を選択し、手札から アーケイン・ファイロ を特殊召喚。」

瀬人「俺の手札に、同じレベルのモンスターはいない。よって俺は特殊召喚はしない。」

遊佳「さらに、墓地の レベル・ステイラー の効果発動。エシエント・ホーリー・ワイバーンのレベルを3つ下げ、 レベル・ステイラー 3体を特殊召喚。レベル1の レベル・ステイラー 3体とレベル2の ボルト・ヘッジホッグ にレベル2  
アーケイン・ファイロ をチューニング。」

遊佳「1ターンで2体もシンクロ召喚をするの!？」

遊佳「7つの星の光集まるとき新たな希望の光となる、シンクロ召

喚輝け エンシェント・フェアリー・ドラゴン。さらに、フィールド魔法 聖域の歌声 を発動し、エンシェント・フェアリー・ドラゴンの効果で破壊し、ライフを1000回復する。」

瀬人「またか!!」

遊佳 LP6000

遊佳「エンシェント・ホーリー・ワイバーンの効果発動。このモンスターは自分のライフが相手のライフより上の場合、その数値だけ攻撃力がアップする。」

瀬人「何っ、攻撃力が4100だと!?!」

遊佳「さらに、団結の力をブラック・マジシャンとブラッ

ック・マジシャン・ガールに装備。

フィールド上にいるモンスターは4体、つまり3200アップする。

」

克也「そんなのありかよ!!」

遊佳「ブラック・マジシャンとブラック・マジシャン・ガールでブルーアイズ・ホワイト・ドラゴンを攻撃、ダブルブラックマジック!!」

瀬人「ブルーアイズ・ホワイト・ドラゴンが!」

瀬人 LP1900

遊佳「残りでダイレクトアタック。」

瀬人「ぐああああ!!!。」

瀬人 L P I 5 3 0 0

もう少し行くと思ったけど、まあブルーアイズが2体も出たからしかたがないよね。

木馬「兄様が負けるなんて。」

克也「海馬が子供相手に1ターンキルされるなんて。」

何とかして帰る。もう疲れた。

遊佳「あ、あの〜。」

遊戯「どうしたの?」

遊佳「もう、帰っていいですか?」

克也「えっ、もう帰んのか?」

遊佳「はい、少し用事を思い出したので。」

遊戯「そうか、じゃあ、また今度僕とデュエルしてね。」

遊佳「はい、分かりました。」

克也「あっ、遊戯ずるいぞ。俺ともデュエルしようぜ。」

遊佳「はい、では決勝で会いましょう。」

やっと解放された。早く家を探さないと。

遊佳「ここなの？」

地図どうりに来たら、普通の家がたっていた。

遊佳「とりあえず中に入ろう。」

手紙と一緒に入っていた鍵を使うと鍵が開く音がした。中に入ると意外と広がった。

机の上にまた手紙が置いてあった。

なになに、「一応小学生だから学校に通ってもらうからね、」って学校行かなくちゃいけないの。」制服なども用意したよ。あと、バトルシテイ編が終わるまで学校は休みだよ。」って休みなんかい！！

まあ、いいや。今日は疲れたからもう寝よ。これから大変だし。そのままベッドで寝てしまった。

#### 第4話 もう嫌だよ（後書き）

遊佳「あたしは何回デュエルすればいいのよ。」

まあ、もう少し頑張つてよ。これからバトルシティ編に入るんだから。

遊佳「もう寝る。感想などよろしくお願いします。」

まったく、感想お願いします。



## 第5話 最悪な1日（前書き）

今回はいろいろと大変です。  
それでは、どうぞ。

## 第5話 最悪な1日

視点遊佳

ううう、眠いよ。

はっ、いかんいかんついまた寝るところだった。

って、朝まで寝ちゃったの！？やっぱ体が子供だからかな。

まあ、今日もデュエルしないといけないから頑張りますか。まず準備をしないと。

遊佳「準備完了と。また公園にでも行ってみようかな。」

公園に来たらもう何人かがデュエルしてる。今持っているパズルカードは2枚、たしか記憶が正しかったらパズルカードを5枚か、6枚ぐらい集めないといけないかったはず。  
よし、なら6枚集めよう。

ースタスタスタスタ

今、確実にフラグが立ったような気がする。まあ、ただ誰かが走っていっただけだね。そうだね。

『あ………で………よ』

また何かフラグが立ったような気がする。今日はもう帰ろうかな？でも、早く集めないとダメだし。まあ、大丈夫だね。

ースタスタ シュッ タッ

うん、完全なフラグでした。

???「フフフッ、君が星井 遊佳だな。」

どう考えてもマリクだね。声で分かるし。それよりどうしようか。  
……………よし、逃げよう。全力疾走決定。

マリク「おい、待てっ――！」

うおおおおおお――！！！！！！  
全力疾走おおおお――！！！！！！

はあ、はあ、はあ。ここまでくれば大丈夫かな。

マリク「もう鬼ごっこは終わりだよ。」

つて、追いついてきやがった！！やばいよ。あたしはまだ闇のゲームで死にたくないよ。

マリク「さあ、デュエルをしてもらおうよ。」

もう、こうなったら腹をくくってやってやらあ。

マリク「フフッ、やっとその気になったか。」

もうどうにでもなれ。

「デュエル」

遊佳「あたしのターン、ドロー。」

フツ、このデッキは家を出る前に簡単に作った超ドローエグゾディアデッキだ。さて、これに勝てるかな。楽しみだ。

遊佳「手札抹殺を発動。互いにカードを2枚選び捨て、新たに2枚ドローする。2枚ドロー。」

手札は……うん、やっぱりチートだ。エグゾディアが今1枚、墓地に2枚あるからあと2枚だ。

遊佳「成金ゴブリンを発動、相手が1000回復する代わりにあたしはデッキからカードを1枚ドローする。」

マリク LP5000

よし、結構いいぞ。

遊佳「強欲な壺を発動。2枚ドロー。」

あつ、勝った。

遊佳「闇の量産工場を発動。墓地から通常モンスターを2体手札に加える。

封印されし者の右足と封印されし者の右腕を手札に加える。

これによりあたしの勝ちが決まった!!」

マリク「なんだと!?まさかエグゾディアか!!」

遊佳「そう。今5枚のパーツが全て揃った。怒りの豪火、エグゾ  
ートフレイム!!」

マリク「そんな、こんな事があるのか。先行1ターンキルなんて。」

いや、あるでしょう。第一今やったでしょう。

マリク「でも、これで終わったと思うなよ。この町にはレアハンタ  
ーが多く潜んでいる。決して逃れられない。」

遊佳「何であたしを狙うわけ?あたしは何もしてないよ。」

マリク「それは簡単なことさ。君は僕の知らない召喚方法をしてい  
た。そんな君が僕の手駒になれば  
ファラオを簡単に殺すことが出来るからさ。」

っておいおい、今殺すとかほざいたよね。子供に向かってそんなこ  
とを言うなよ。

それより、シンクロ使わなきゃ良かったよ。まあ、今更後悔しても  
しかたないよね。

マリク「フフ、必ず君を僕の手駒にしてみせるよ。」

それだけ言うと突然倒れてしまった。

それより、せっかくだからパズルカードとアンティ―貰おうかな。  
パズルカードは2枚、アンティ―は、……って、オシリスの天空

竜がいるじゃない。貰わないほうがいいよね。これは王様が手に入るはずなんだから。ていうかあの自称神野郎がカードを全部くれたから神のカードも持ってるし。  
さつさとパズルカードを集めよ。全員1ターンキルのデッキでいいよね。

遊佳「全モンスターでダイレクトアタック!!」

???「ギャアアアア!!」

??? LP17800

遊佳「パズルカードは貰うね。」

アンティーの代わりにパズルカードを2枚かけているから、これで6枚。

もういいよね。

???「(ヒョヒョヒョ、あんな所に子供がいるなんて。ついてるな。)(その君、僕とデュエルしようよ。」

パズルカード、アンティーはそれぞれ2枚ずつで。」

うわゝ出たよこの虫野郎。あたしの嫌いなキャラクター。どうしようかな。

まあ、パズルカードは6枚だったと思うし。……大丈夫だよね！

遊佳「あたしはもうパズルカードを6枚集めたので失礼します。」

羽蛾「（何っ、もう全てのパズルカードを集めただと。そんな）なら、そのパズルカードをかけてデュエルだ！」

えゝ、しつこすぎるよ。パズルカードを全部集めたから大丈夫だと思ったら全然ダメじゃん。

人間諦めも大事なんだけどな。

遊佳「人間諦めも大切ですよ。諦めてください。」

羽蛾「そんなっ、これに勝てば決勝に行けたのに。」

えっ、そんなに集めたの！？意外と強いんだね。でも無駄にデュエルをしたくないんだよね。

だって、面倒だし。すぐに勝っちゃうし。

それより、早く此处から離れよう。さっさと決勝戦に出よう。

遊佳「此处なんだ。」



来てみると何処かのドームみたいな所だった。そういえばこの中にバトルシップがあるんだっけ。

それより、持ち物確認。

デッキはちゃんとあるね。パズルカードも6枚全部あるし、デュエルディスクも異常なし。

そして、首にはお母さんがくれた四つ葉のクローバーのネックレス。あたしのお母さんはあたしが小さい頃に死んじゃった。でも、その時にお母さんがこのネックレスをくれたんだよね。

これはあたしの大切な宝物なんだ。いつも身に付けているからお守りみたいな物なんだ。

よし、持ち物もちゃんとあるし早く中に入ろう。

遊佳「あのー、此処が決勝のステージですよね。」

中に入るとよくいる黒いスーツを着ている人がいた。  
やつぱりこんな人ばかりなんだね。

黒服A「はい、そうですよ。ではパズルカードの確認を。」

遊佳「はい、これです。」

パズルカードを6枚渡すと、どうぞと言われ中に入った。

黒服A「此処があなたの部屋です。」

此処が部屋か。意外と広いな！まあ、嬉しいからいいけど。

『よ……で……ね。マ……タ……。』

まただ。また変な声が聞こえた。まさか精霊かな？  
そんなはずは無いよね。あの自称神野郎には精霊の事はなんにも頼んでないし。

それより今更だけど地味に疑問がいろいろあるんだよね。  
まず、バトルシティって何日もやってたっけ？  
それにグールズとも全然会ってないし。

まあ、いいや。考えるのも面倒だし、今日はもう寝よ。  
明日は決勝戦があるかな。

## 第5話 最悪な1日（後書き）

次回から決勝戦に入ります。

遊佳「大丈夫かな、あたし。」

まあ、闇のゲームをすることだけ言っておくよ。

遊佳「あたしはまだ死にたくないよ。」

大丈夫だから。それより、感想やアドバイス等よろしくお願いします。

遊佳「お願いします。」

## 第6話 決勝戦開始！（前書き）

やっとテストから解放されました。  
これでやっと進めることができます。

遊佳「テストの点数は？」

言うわけないでしょうが！！

それでは第6話、スタート！

## 第6話 決勝戦開始！

視点遊佳

アナウンス「これより、トーナメント1回戦を始めます。参加されるデュエリストの皆様はホールへお集まりください。」

良く寝たな。転生前はまだ中学生のくせに睡眠時間は平均6時間だったんだよね。

いつも夜は11時に寝て、朝の5時に起きてた。

あたしの家族は、お父さんとお兄ちゃんが2人もいるからあたしが早く起きていろいろとしたっけ。

みんな、大丈夫かな。

大丈夫だよ。よし、決勝も頑張りますか。

『が……ば……て……だ……ね。』

またかよ。でも、前よりはだいぶ聞こえるようになったな。まあ、あまり気にせずに決勝行こう。

おお、いろんな食べ物があるや。それより、決勝戦は誰が出るんだろう。

あたしが居るから誰か1人抜けるはずだし。

でも此処には、獺良に遊戯さんに舞さんに克也さんに瀬人さんにマリクにリシドがいる。

もしかして、イシズさんが抜けたのかな。でも、それはないよね。だとすると誰かは応援として来てるのかな。

まあ、1回戦は王様VS盗賊だったはず。

興味ないからご飯を食べたら部屋に帰ろう。

遊戯「あつ、遊佳ちゃん。」

あつ、見つかった。

遊佳「またお会いしましたね。」

克也「おつ、お前も決勝戦に出られたのか。」

遊佳「はい、皆さんも出られたみたいですね。」

うわゝ、どうしよう。あんまり関わりたくないんだけどな。

杏子「ねえ、遊戯この子は？」

そつえば、まだ会ってなかったな。

遊戯「この子は星井 遊佳ちゃん。前に話したシンクロ召喚を使う女の子だよ。」

ちよつと、シンクロ召喚を広めないでよ！！

舞「へゝこの子がね。あたしは孔雀 舞よろしく。」

遊佳「改めて、星井 遊佳です。よろしくお願いします。」

何かとんでもない事になっちゃったよ。まあ、いいかな。

杏子「あたしは真崎 杏子よろしく。」

克也「あと、俺の妹の静香だ。」

静香「よろしくね。」

遊佳「よろしくお願いします。」

遊戯「あと、本田君に御伽君に獏良君だよ。」

杏子「あと、ナム君だよ。」

出たな、マリク。ここでこの人がマリクだと明かすか、明かさないか。

どうしようか。……まあ、下手に言ってから流れがおかしくなっちゃ嫌だしね。  
言わないでおこう。

杏子「でも、こんなに一気に覚えられないよね。」

遊佳「大丈夫です。杏子さんに舞さんに静香さんに本田さんに御伽さんに獏良さん、ま、ナムさんですよ。」

克也「すげー、みんな覚えてるじゃんか。」

マリク「（こいつ、まさか僕の正体に気がついたのか？何故だ。）」

危ない危ない。うつかりマリクって言うところだったよ。

磯野「これより、トーナメント1回戦の組み合わせを発表いたします。」

克也「おっ、いよいよか。」

あたしは何番目だろ。

最初は分かるけどもしかしたら変わるかもしれない。

磯野「アルティメットビンゴスタート！」

最初の対戦者は……デュエリストナンバー6、獺良 了！

二人目の対戦者は……デュエリストナンバー3武藤 遊戯！」

あっ、やっぱりそのままなのね。まあ、あたしは部屋に戻って休んでおこう。

結果は分かっているんだしね。暇が一番嫌いだし。

マリク「ねえ、遊佳ちゃん、君も観戦するの？」

遊佳「いえ、あたしは部屋で休んでいます。」

克也「えっ、お前見ないのかよ。なんでだ？」

遊佳「わざわざ他人のデュエルを見る位なら自分のデッキを調整したほうがいいですし。」

マリク「凄い自信だね。」



遊佳「はい。それに、神に対抗するデッキを作りたいのであたしは失礼します。」

あたしはそのままその場を後にしたけど、何かどんなデッキになるんだろうねとか

そんなデッキがあるのかよとか聞こえた。

それより、やっぱ神に対抗するなら邪神でしょう。

邪神は神のカードに対抗して作られたしね。

遊佳「それより、本当にカードが実体化するのかな？」

あの自称神野郎、もう面倒や。馬鹿でいいよね。あの馬鹿に一応頼んでおいたけど

本当に実体化するのか。試してみよう。

遊佳「ブラック・マジシャンとブラック・マジシャン・ガールを召喚。」

ガール「やっと、出られましたっ！」

遊佳「煩い、黙って、喋らないで、消えて、カードに戻って、そして消えて。」

ガール「ひどいです。」

何か涙目になったけど、これって精霊パターンだね。

マジシャン「やっとお会いすることができました。主。」

何でこうなったんだ？まあいいや。早くデッキを作ろう。

ガール『マスター、どんなデッキを作るんですか？』

遊佳「神に対抗するカード、邪神を使う。」

ガール『へへ、そんなカードがあるんですね。』

遊佳「まあ、少し待ってて。すぐに作るから」

…………… 30分後

遊佳「出来た。それよりまだデュエルしてるのかな？少し見に行ってみよう。」

遊戯「オシリスの天空竜 で攻撃！ サンダーフォース！」

おお、ちょうど終わったみたいだな。それより、30分もデュエルすんなよ。

長すぎだろ。まあ、いいや。

克也「あれっ、遊佳じゃないか。どうしたんだ？」

遊佳「はい、デッキが出来たので少し様子を見にきました。」

御伽「もう出来たのかい、すごいね。」

デッキ1つ作るのにそんなに時間は掛からないと思うけど。  
でも今回は少し大変だったけど。

アナウンス「これより、20分の休憩とします。  
20分後、再びホールにお集まりください。」

よし、それまで寝よう。

ガール『寝るんですか！？』

遊佳「（まあ、そんなに突っ込まないでよ、あかり。）」

ガール『なんですか！？そのあかりって。』

遊佳「（今あたしが決めた名前。ガールはあかりでマジシャンは…  
…ナイト。）」

ガール『何でお師匠様はナイトなんですか？』

遊佳「（ナイトは騎士っていう意味でしょ、喋り方が騎士っぽいから。）」

マジシャン『（私は騎士ではなく魔術師なんだが。）』

遊佳「（ナイト、自分は魔術師だ。とか思ってるでしょう。）」

マジシャン『っ！？は、はい。』

遊佳「（喋り方がそれっぽいだけ。いいのが思いついたら変えるよ。）」

マジシャン「はい。分かりました。ならばこれからはナイトと名乗ります。」

ガール「あたしもこれからはあかりって名乗ります。」

遊佳「（それじゃ、時間になったら起こしてね。）」

## 第6話 決勝戦開始！（後書き）

はい、やっと精霊を出せました。

遊佳「何で精霊を出したの？ 知らないのに。」

まあ、せつかなんだから出したくなるじゃんか。

という訳で次からはあかり、ナイトとして出ていきます。  
お楽しみに。

## 第7話 いきなり（前書き）

今回は凄いグダグダです。

遊佳「作者の勝手な妄想があるから注意してください。」

それでは、第7話スタート！！

## 第7話 いきなり

視点遊佳

あかり『マスター、もうすぐ2回戦の抽選が始まりますよ。』

遊佳「ふあゝ、もうそんな時間か。さて、行きますか。」

さて、2回戦はどうなるかな。早くあたしの番が来ないかな。

木馬「これより、2回戦の抽選を行います。

アルティメットビンゴ、スタート！」

何で木馬がやってんだ？それより、次は誰がやるんだろうな。

木馬「2回戦の対戦者は、デュエリストナンバー2、城之内 克也！  
2人目は、デュエリストナンバー7、マリク・イシユタール！」

次は凡骨VSリシドか。アニメどうりだな。

もしかして、多分だけあたし、孔雀 舞の代わりかな？

そんなはず無いよね。……………無いよね。

あかり『マスター何か大丈夫ですか？』

遊佳「（まあ、大丈夫だよな。暇だし、デッキでも作るか。）」

あかり『そうですね。』

さて、それじゃあ部屋に戻るかな。

遊戯「このデュエルも観ないの？」

遊佳「はい、部屋に戻って休んでいます。」

遊佳「さて、どんなデッキを作ろうかな。」

あかり『マスターが前から作りたいって言ってたシンクロ主体デッキはどうですか？』

遊佳「あゝ、あの蟹のコピーデッキか。

よし、それじゃシンクロ主体デッキとエクシーズデッキを作るか。」

シンクロなら作れるけど、エクシーズは難しそうだな。

あかり『そういえばマスターはエクシーズ使ってませんね。』

遊佳「まあ、あれは面倒だからね。

それよりあかり、1つ聞いていい？」

あかり『なんですか？』



遊佳「何であたしが転生前に思ってた事を知ってるの？」

あかり『だって、あたし達もマスターと同じで向こうの世界から来たんですから。』

そうなんだ。変なの。

遊佳「つまり、転生前もずっと一緒だったという事？」

あかり『はい、そうですよ。』

マスターは転生前もあたし達を大切に使ってくれましたよね。』

遊佳「それはそれ、これはこれ。まさかあたしと一緒にだとは思わなかったよ。なら、リアルに元の世界で精霊が居ると言うこと？」

あかり『そういう事です。マスターが捨てられていたカードを拾ったから、カード達が喜んでくれます。きっと、いつでも助けてくれますよ。』

遊佳「それは、ずいぶん前の話でしょ。」

あかり『でも、凄く喜んでいましたよ。』

遊佳「まあ、それなら良かったよ。さて、デッキを作ろう。

まず、あの蟹が使ってたカードを集めて、使いやすく変えよう。」

..... 10分後

遊佳「よし、後は何を入れようか。」

あかり『これを入れて、これを抜いたらどうですか？』

遊佳『うーん。でも、これを入れたらこれがいらないし。こっちを入れたらどう？』

あかり『なら、こっちも入れたらどうですか？』

……さらに10分後

あかり『やっとできましたね。』

遊佳『ああ、意外と時間がかかったね。そして、まだやってるのか？』

ナイト『主、もうまもなく終わるようです。』

遊佳『そう、ありがとうナイト。』

さて、また20分の暇が出来てしまう。

ライティー『なら遊ぼうよ、マスター。』

ダルク『煩いな。』

ライナ『まあ、そう言わないの。ダルク。』

ファイリー『あたかも仲間に入れてよ。』

アーシー『なら、私も。』

アウス『僕も仲間に入れてよ。』

ウィン『あたしも入ります！』

ヒータ『オレはパス。』

エリア『え〜。やろうよ、ヒータ。』

なにこれえ。

遊佳『あかり、状況説明を。』

あかり『はい、マスターが持っているカードの精霊です。』

遊佳『あたしって何体精霊を持っているんだろっ。』

あかり『分かりませんが、沢山いることは確かです。』

ライティー『マスター、遊ぼうよ。』

まあ、こつちに来てからは子供っぽい遊びはしてないからたまにはいいかな。

気分転換に思いつきり遊ぼうかな。

遊佳『いいよ。何して遊ぶ？』

ライナ『あたし、かくれんぼしたい！』

ダルク『子供だな。』

ライナ『ほつといてよ！お兄ちゃん。』

遊佳「お、お兄ちゃん！？」

アウス『そう、僕が長女で弟のダルク、次女のウィンに3女のヒータそして4女のエリアで5女のライナです。』

アーシー『私達も。私が長女で次女のダルキー、3女のウォーテリーに4女のウィンディー5女のファイリーで6女のライティーです。』

遊佳「姉妹だったんだ。そしてやっぱりダルクは男の子だったんだ。」

ダルク『そこは言わないでくれ。主人。』

ライナ『それより早く遊ぼうよ。』

遊佳「分かったよ。鬼は誰がする？」

ファイリー『あたいがするよ。』

遊佳「それじゃ、みんな参加してね。」

ヒータ『オレも参加するのか！？』

遊佳「勿論。みんな他の人に見つからないように気を付けて。隠れる場所はこのバトルシップの中全て。1分したら探して。20分以

内で全員見つけたらファイリーの勝ち。いい?」

ファイリー『いいよ。絶対に見つけてやる。』

アウス『でも、こんなにいるのに20分で見つけられるかな?』

何か挑発してるけど。

遊佳「それじゃ、スタート!」

さて、何処に隠れよう。

.....おつ、いい場所見つけ。此処にしよう。

.....15分後

ファイリー『よし、後は主人だけだ。』

ライティー『お姉ちゃん凄いね。』

近くに居るけど意外に見つかってない。  
でも、意外と怖いんだよね。こういうの。

アナウンス「これより、バトルシティ3回戦を行います。」

ファイリー『あゝあ、負けちゃった。』

遊佳「あたしの勝ちだね。」

ファイリー『そうだね。それより主人、早く行かないと。』

遊佳「そうだね。行こう。」

磯野「これより、3回戦の抽選を行います。

アルティメットビンゴ、スタート!!

最初の対戦者は、デュエリストナンバー4、星井 遊佳!!」

遊佳「え？」

克也「おっ、今度は遊佳の番か。」

磯野「続いての対戦者は、デュエリストナンバー5、マリク・イシユタール!!」

「「「ええええー!!!」」」

頼い&はもるな。

克也「大丈夫なのかよ。」

御伽「確かに。この子はまだ子供だよ。なのに、闇のゲームをするなんて。」

遊佳「あたしなら大丈夫です。」

遊戯「だが、闇のゲームは君が思っているほど甘くない。  
ここは諦めたほうがいいぞ。」

何か、似たセリフを言ったような。

遊佳「大丈夫です。デュエリストなら、対戦者に背を向けられませ  
ん。」

遊戯「だが、危険なんだ。デュエルより、命のほが大切なんだ。」

遊佳「大丈夫です。あたしは勝つので。勝てば問題はありませんよ  
ね。」

遊戯「っ！？分かった。だが、危険を感じたらすぐにデュエルをや  
めるんだ。」

何かアテム凄いい親みたいな事言ってるし。

あかり『マスター、頑張ってください。』

遊佳「（ああ、任せて。絶対に勝つー！）」

## 第7話 いきなり（後書き）

遊佳「なにこれえ。」

最初に言うことがそれかい！！

遊佳「だって、精霊が何か沢山出てきたし。」

まあまあ。

さて、ここで今回登場した精霊を簡単に説明します。

霊使いのアウス、ダルク、ウィン、ヒータ、エリア、ライナ。  
フォーチュンレディのアーシー、ダルキー、ウォーテリー、ウィン  
ディー、ファイリー、ライティー。

遊佳「勝手に作者が妄想で姉妹、姉弟にしたから  
実際は違います。注意してください。」

もう一度言います。違うので注意してください。」

それでは、感想等お願いします。



## 第8話 最悪な相手（前書き）

今回はとりあえず短いです。  
すみません。

遊佳「そんなダメ作者はほっというて第8話スタート！」

## 第8話 最悪な相手

視点遊佳

さて、大変な事になったぞ。相手があのマリクだとは。ま、頑張つて勝つか。

磯野「これより、決勝戦第3回戦を開始致します。対戦者は互いのデッキをカット&シャッフル！」

デッキを渡すなんて嫌だな。キモイし、キモイし、キモイし。

あかり『マスター、凄い嫌っているんですね。』

あかりが突っ込んで来たけどスルー。我慢してデッキを渡したらキモイ顔で、

マリク「はははは、ラーがデッキの下に行くようによくシャッフルするんだな。」

とか言つてた。とりあえず、キモイ！！誰か何とかして！！

磯野「それでは、デュエル開始いいー！！！！！！」

やった、生である「デュエル開始いいー！！！！！！」が聞けた。

マリク「はは、俺のターン、ドロー！」

あっ、あいつ先行取りやがった。やばい、あいつに先行を取られた

ら、

マリク「速攻の吸血蛆を召喚、プレイヤーへダイレクトアタックー！」

ほら見る！やっぱりこうなった！！  
やっぱりダメージを体感するのか？

遊佳「くっ！！」

遊佳 LP 3500

ダメージの痛みを受けるかと思ったら、痛みはなかった。  
なんでだ？

………あつ、思い出した。確か記憶が消えるんだっけ。って、  
ええええー！！！！  
なら、転生前の友達とか忘れるの！？どうしよう。

マリク「さらに俺は手札を1枚捨て、速攻の吸血蛆を守備表示にするぜえ。」

克也「なんだよ、そのチートカードは！？」

出たよ。ラーを墓地に送るコンボ。何で手札がそんなに揃うの？

マリク「さらにカードを2枚伏せ、ターン終了だ。」

遊佳「あたしのターン、ドロー。フィールド魔法 カイザーコロシ  
アムを発動。これにより、相手はあたしの場に出ているモンスター  
ーの数だけしかモンスターを出すことができない。

さらにモンスターをセット、カードを3枚伏せターンエンド。」

遊戯「よし、うまいぞ。これでやつはこれ以上モンスターを出せない。」

克也「すげー。これなら勝てるかもしれねえ。」

何とかこれでうまくいけるかな。

マリク「くっ、鬱陶しいカードだ。俺のターン、ドロー。」

魔法カード サイクロン 発動！その邪魔な魔法カードを破壊！」

えええー、そんなカード入れてたのかよ。なら、

遊佳「リバーズカードオープン罠カード マジック・ドレイン これにより

相手は魔法カードを1枚捨てなければ魔法カードの発動を無効にし、破壊する。

さあ、どうしますか。破壊か、捨てるか。選んでください。」

マリク「くっ、なら魔法カードを1枚捨てるぜ。」

手札を全部使ってまで破壊したか。

マリク「 リバイバルスライム を守備表示で召喚しターンエンドだ。」

遊戯「あれはっ！気をつけろ、あのモンスターは「あの、それって手助けになるのでは？」っぐ、だが。「 リバイバルスライム は再生能力を持っている、ですよね。」っ！ああ。」

マリク「ちつ、知っていやがったか。」

遊佳「知識ならそれなりに自信はあります。あたしのターン、ドロ！。」

カードを1枚伏せ 天よりの宝札 を発動。あたしは6枚ドロ。」

マリク「俺も6枚ドロ。」

遊佳「カードを1枚伏せターンエンド。」

マリク「俺のターン、ドロ。チツ、ターンエンドだ。」

どうやら手札が事故ったようだね。  
助かったよ。

遊佳「あたしのターン、ドロ。伏せていたリバースカードオープン、 極限への衝動 を発動！

これは手札2枚を墓地に送る事で ソウルトークン を2体特殊召喚する。

手札を2枚捨て、 ソウルトークン を2体特殊召喚。

さらに、 魂を削る死霊 を反転召喚し、 魂を削る死霊 と ソウルトークン 2体を生け贄に捧げる！」

マリク「3体の生け贄だと!?!」

遊戯「3体の生け贄、神のカードか。それとも別のモンスターか。」

神のカードなわけ無いでしょうが!!

遊佳「いでよ 邪神アバター ！！」

みんな驚いてる。どういう意味で驚いてるんだろう。  
あまりにも黒過ぎるとか？

それとも3体分の生け贄なのにこんなモンスターだったから？

マリク「はっ！こんなモンスターで生け贄が3体だと。舐めるのも  
いい加減にしろよ。」

遊佳「別に舐めてませんよ。アバターの効果発動。このモンスター  
が召喚に成功した時  
相手ターンで数えて2ターンの間相手は魔法・罠カードを発動でき  
ない。」

マリク「何っ！？」

この2ターンの間で決めるしかないな。

遊佳「さらに、フィールド上にいる最も攻撃力の高いモンスターの  
攻撃力+100の攻撃力になる。」

邪神アバター で攻撃。さらにカードを2枚伏せてターンエンド。  
「

マリク「クッ、俺のターン、ドロ。」（このままじゃ何も出来ない  
ぜ。）カードを伏せターンエンド。」

そうきたか。

さて、どうやってあのスライム野郎を破壊するか。

遊佳「あたしのターンドロ。さて、どうしようかな。」

「『『考えていなかったのか!!』』」

何か突っ込まれちゃった。

でも、本当にどうしよう。モンスターカードが無い。

まあ、覚えているのが確かならあのデッキにはせいぜい罨外し位しか破壊するカードが

なかったと思うし、今はまだ魔法・罨カードが使えないから意味がない。

でも、その間に死者蘇生が引かれたらやばいな。

多分速攻の吸血蛆の時に墓地に送られたと思うし。

遊佳「カードを伏せて、ターンエンド。」

これで大丈夫かな。

マリク「俺のターン!」

ー続くー

## 第8話 最悪な相手（後書き）

遊佳「短いんじゃないー！！このダメ作者！！」

短くてきりが悪くてすみません。

短気なもので。

デュエルシーン、難しいですね。

遊佳「それでは感想等よろしくお願いします。」

お願いします。



## 第9話 これこそがチート!!（前書き）

はい、今回は題名を見ても大抵の人は予想が出来る展開です。

遊佳「作者はデュエルシーンを書くのが超が付くほど下手くそです。なので今回は読まなくても話の流れは簡単に分かりますのでこれを読まずに

次を読んでも構いません。」

それでも読んでくださる心が広い人はどうぞよろしくお願いします。

よろしいですね。それでは第9話スタート！

## 第9話 これこそがチート！！

視点あかり

はい、あたしマスターである星井 遊佳の精霊のブラック・マジシャン・ガールことあかりです。

現在マスターと顔芸さんことマリクさんのデュエルをみんなで見ているんだけど。

ウィン『ねえ、みんなどっちが勝つと思う？』

アウス『そりゃマスターでしょう。今でもマスターが押しているんだから。』

ダルク『ただどあの顔芸の事だ、逆転のカードを引くかもしれない。』

あかり『どうだろうね。どう転ぶか分からないのがデュエルだからね。』

今の状況を簡単に説明すると、手札はマスターが3枚で顔芸さんが8枚。

伏せカードはマスターが5枚で顔芸さんが3枚。

モンスターはマスターが邪神アバター1体で顔芸さんがリバイバルスライム1体。

これからどうなるか。

場にいるモンスターはマスターのほうが有利だけど、手札は顔芸さんのほうが多いし。

マリク「俺のターン、ドロー。（リバイバルスライムが居るから１ターンは持つだろう。）俺はこのままターンエンドだ。」

遊佳「あたしのターン、ドロー。（このターンで決めたいけどどうやってあのスライム野郎を破壊するか。何か破壊できなくてウザイ＆顔芸の顔がむかつくんだよな。切れないようにしないとな。）

魔法カード 強欲な壺 を発動。２枚ドロー。（あつ、いけるかもしれない。でも、どうしようかな。まあ、やってみますか。今は魔法、罫カードも使えないし。行けるかな。）

フォーチュン・レディ・ライティー を召喚。」

克也「出たー！！あの時のモンスターだ！」

杏子「このモンスター見たこと無いや。どんな効果なんだろう。」

出たっ！マスターお得意のコンボ！！転生前は超が付くほど運が悪くてできなかったけど…。やっと出来たんだとしてもスターダストの効果で破壊されちゃうし…。でも、転生してからはチートになったから良くこのコンボが決まるんだよね。

遊佳「さらに ワンダー・ワンド を装備し、効果で破壊する！！そして２枚ドロー出来る。」

さらに、ライティーの効果でデッキから フォーチュンレディ・フアイリー を特殊召喚出来る。

さらにフアイリーの効果発動！！」

マリク「何回効果を使っているんだ！！」

遊佳「そんな事言われても、魔法使い族はコンボが基本なんで。」

遊戯「確かに、コンボは魔法使い族の基本だが、これほどコンボが決まるのは珍しいぞ。」

そんなに珍しいのかな？マスターならもっとコンボ決めそうなんだけどな〜。

遊佳「（そんなに珍しいのかな？頑張ればもっとコンボを決められそうなんだけどな。）

デュエル続行。ファイリーはフォーチュンレディと名の付いたカードの効果によって特殊召喚に成功した時、相手フィールド上の表側表示モンスターを1体破壊する。スライム野郎を破壊する。」

ま、マスター、スライム野郎ってひどいですよ。

それより、ほとんど元のデッキと変わってないけど……。

遊佳「さらに、スライム野郎の攻撃力分のダメージを相手に与える。」

マリク「ちっ！」

マリク LP 2500

遊佳「まだです。魔法カード 二重召喚 を発動。効果によりあたしはもう1度通常召喚が行える。

ファイリーを生け贄に捧げて ブラック・マジシャン・ガール を召喚。

さらに、リバーズカードオープン魔法カード 賢者の宝石 を発動。あたしはデッキから ブラック・マジシャン を特殊召喚する。そして 邪神アバター は効果により攻撃力が2600となる。」

やった！マスターがあたしを使ってくれました。  
それより、マスター手加減無しだね。  
今のフィールドは、

ブラック・マジシャン    ATK 2500

ブラック・マジシャン・ガール    ATK 2000

邪神アバター    ATK 2600

でも、マスターのことだからまだ何か有る気が……。

遊佳「さらに、伏せていた    団結の力を    ブラック・マジシャン  
に装備。」

当然、アバターの攻撃力もアップします。」

えーと、計算すると、

4100 + 4200 + 2000 = 10300

2500 - 10300 = -7800

ま、マスター容赦無しです。なんだかかわいそうです。

遊佳「全モンスターでダイレクトアタック!!」

マリク「くそっ!! こんなガキにやられるなんて!!」

そう言う顔芸さんは倒れてしまいました。

このバトルシップって本当に大変な大会ですね。見ていて分かりません。

磯野「トーナメント第3戦勝者星井 遊佳!!」

克也「スゲー、あのマリクに勝ったぜ!!」

杏子「確かに、子供なのに凄いわね。」

遊佳「ありがとうございます。それではあたしは部屋でデッキ調子「待て。」なんですか?」

瀬人「アンティールールによりラーのカードを受け取れ。」

遊佳「(あつ、忘れてた。どうしよう。あたしが受け取ったらアテムの記憶が戻らないかも。

でも、普通に渡せば……いや、アテムの事だからもしもあたしが勝ったら逆に神のカードを渡すかもしれない。どうしよう。………こうなったらわざと負けて渡すしかないか。) 分かりました。それではあたしは部屋に戻っています。」

マスターはそう言うのと降りて行っちゃった。

視点遊佳

はゝ、疲れた。顔芸相手だと精神的に疲れるよ。  
神のカードの事もすっかり忘れていたからね。

あかり『マスター、お疲れ様です。』

遊佳「ああ、あかりか。何かもの凄く疲れたのは気のせいだろうか。」

あかり『はは、多分気のせいじゃ無いと思いますよ。』

遊佳「あつ、やっぱり。顔芸相手だと疲れちゃうよ。」

あかり『ははは。でもマスター余裕でしたよね。』

遊佳「そうでもないよ。初手を引いたとき事故りかけてたもん。天よりの宝札で何とかなったんだけどね。」

あかり『へへ。後マスター、デッキがいつものデッキとあまり変わってないんですけど。何ですか？』

遊佳「だっていきなり作れと言われても作れないでしょ。」

それに、まだ1回も試していないのに慣れない戦い方でやるのは完全にとちらが不利になるだけでしょ。」

だったら、いつものデッキを少し変えるほうがましだし。」

それに、邪神は作るのが難しいからこうするしかなかったんだけどね。」

あかり『確かにそうですね。』

遊佳「確か今夜のデュエルは後キャベツとイシズさんだけだったよね。」

あかり『はい、それよりマスター。キャベツは可愛いそうなのでせ

めて社長にしてあげたらどうですか？』

遊佳「まあ、それもそうだね。社長でいいか。さて、あたしは寝るか。」

あかり『何でそういう事になるんですか！？』

遊佳「暇だから。」

あかり『マスターは本当に暇が嫌いですね。』

明日って何かあった気がするけど、なんだっけ？  
まあ、いいや。早く寝よ。

あかり『（マスター寝ちゃった。絶対に明日乃亜編が有ること忘れる。）』



## 第9話 これこそがチート!!（後書き）

あかり『はい、今マスターが寝ているので、あたしが担当します。』

何故にあかり!!まず担当とかあるのかよ!!

あかり『まあ、そう言わない。

さて、次回はいいよ乃亜編!凄く楽しみです!』

次までに新しいデッキを考えて置かないと。

あかり『念のため言っておきます。

作者はアニメ効果のカードとOCGカードをごちゃごちゃにしています。

なので凄く読みにくいかもしれませんが承知してください。

それでは、感想やアドバイス等お願いします。』

お願いします。

## 第10話 乃亜編突入！！（前書き）

どうも、久しぶりの投稿です。

遊佳「何でこんなに遅いんだよ……。」

フフツ、だがもうすぐ冬休み！！

これでどんどん投稿が出来る……！！

遊佳「何か作者が壊れたので第10話、スタート！」

## 第10話 乃亜編突入！！

視点遊佳

あゝ、もう朝か。眠い。

ナイト『おはようございます、主。』

遊佳「ナイト、おはよう。他のみんなは？」

ナイト『皆まだ寝ています。起こしますか？』

遊佳「いや、いいよ。まだ朝早いし寝かしておいてあげて。」

ナイト『分かりました。』

さて、今日は何があったわけ？何か。何かあった気がするんだよね。なんだつけ？

もう、ほとんど覚えてないや。特にバトルシティ編はまず見ていないし。

ーグラグラグラッ！！

遊佳「じ、地震！？」

ナイト『いえ、ここは飛行船の中です。地震が起きるはずありません。』

遊佳「た、確かに。じゃあ一体何が起きたんだ？」

あかり『あわあわあわ。ま、マスター。ゆ、揺れています!!』

遊佳「そのくらい分かるよ。とりあえず落ち着いて。」

アウス『マスター、大変だよ!!』

もうっ、今度は何が起きたの。

アウス『どうやらこのバトルシップが乗っ取られたようだ!!』

ええー!!!!そんな場面あったっけ?

..... あっ、一つだけあった。

確か乃亜編だったっけ?

その時、バトルシップのコントロールが奪われて、

って、だったらみんな集まっていたはず。あたしも行くっ。

遊佳「やっとう着いた。迷路みたいで道に迷いかけた。」

遊戯「あつ、遊佳ちゃん、大丈夫？」

遊佳「はい。それよりどうなっているんですか？」

克也「おいつ、あれを見る！」

凡骨が大声を出しながら指を指した方向を見ると船？らしき物があった。

大きいね。って、のんきに言っている場合じゃないよ。どうしよう。

乃亜「やあ、瀬人。」

瀬人「貴様、なにものだ！！気安く呼ぶな！！」

乃亜「僕は海馬　乃亜。全知全能の神……とでも言うておくよ。」

確かこいつが海馬のお父さんの子供。

ってことは一応兄弟なんだよね。相性悪いけど。

って、のんきな事を考えている内にその船？らしき物の中に入った。  
やった。

どんだけでかいんだよ……。

みんな降りて行くみたいだからあたしも逝くか。

あかり『マスター、字が違いますよ。』

おっと、間違えた。行くかだった。

あかり『マスター……………。』

少し進むと

乃亜「みんな来たようだね。」

大きなモニターに乃亜が映った。

瀬人「貴様、姿を現せ!!」

乃亜「ならば、君達が来るといいよ。」

ーシューイイイイイン

克也「うわあああ……！」

遊戯「城之内君……！」

あつ、凡骨が落ちたwww

木馬「兄様……！」

ーシユイイイイイン

木馬・瀬人「うわああ……！」

遊戯「海馬君、木馬君……！」

○り抜○ープ

ーシユイイイイイン

杏子「キャアアア……！」

遊戯「杏子……！」

やばいつて。

ーシユイイイイイン

静香「キャアア……！」

御伽・本田「静香ちゃんっ……っうわああ……！」

今度は空気k、本田と御伽が落ちた。残っているのはあたしとA I B O U だけ。

嫌な予感しかないんだけどな。

あかり『マスターどう考えても…。』

ーシューイイイイイン

遊佳「キャアアアアアー!!!」

遊戯「遊佳ちゃん!!! みんなをどうする気だ!!!」

ーシューイイイイイン

遊戯「うわああああー!!!」

あたしは高所恐怖症なんだよ!!!  
もう嫌D Aー!!!

アウス『マスター!!!』

ウィン『待つてー!!!』

エリア『お、落ちるー!!!』

ダルク・ヒータ・ダルキー・ウィンディー『みんな煩い!!!』



もうっ、なんだこのカオスな状態は！！  
マジで誰か助けて！！

遊佳「こ、ここは？」

ナイト「主、大丈夫ですか？」

遊佳「あたしは平気。他のみんなは？」

アーシー「私達は皆無事です。」

アウス「こっちもだよ。でも遊戯さん達とはぐれたみたいだよ。」

うわ。これからどうしよう。面倒なことになったな。

遊佳「っ？ここって……………うわぁ！！崖じゃん、此処！！」

どれだけあたしをいじめれば気が済むのよ！！  
んっ、あれは…………？

遊佳「って杏子さん！？大丈夫ですか？」

杏子「あっ、遊佳ちゃん。無事だったんだ。」

遊佳「いやいや、杏子さんは無事じゃ無いですよね…………。」

何で切れている吊り橋にぶら下がっているわけ？  
とりあえず引き上げないと……………。

遊佳「大丈夫ですか？」

杏子「あたしは大丈夫。みんな無事かな…………。」

遊佳「あたし達が無事なら皆さん無事だと思いますよ。それより、

「ここは何処？」

「チヨンチヨン」

遊佳「？なにこれ。ペンギン？」

杏子「あつ、あなたあの時の」

ペンギン「クエツクエ」

何か鳴いたら歩きだした。そしてまたこちらを向く。

杏子「何っ？付いてこいつて言っているの？」

遊佳「みたいです。とりあえず行ってみましょう。」

ペンギン「クエツクエ」

なにこれ。丸太で作ったボート？  
実際に見てみると良く出来たね。

さらにそのボートに乗って進んでいく。

なんだか寒いな。

っ！！ここって南極！？

そうか。あの変態ペンギンオヤジか。嫌だな。

杏子「ペンギンの国？」

遊佳「ペンギンの国。面白そうですね。」

杏子「面白そうって…………。」

お城の中に入ったら沢山のペンギンがいた。  
何かキモッ！！

大瀧「フフフツ、良く来ましたね。真崎 杏子16歳、星井 遊佳  
8歳。」

遊佳「っ！！女の子の年齢を知っているなんて、この変態！！  
そもそもこれはプライバシーの侵害よ！！この変態ペンギン！！！！」

あかり『マスター、だから突っ込むところが違います!!』

まあ、あかりの言う通り突っ込むところが違うけど。

それより、何故あたしの事を？まだこっちに来てまもないはず。

大瀧「さて、これよりオーディションの面接を始めます。」

遊佳「何が面接よ。早く此处から出しなさい!!」

大瀧「星井 遊佳8歳、あなたのようなガキには用はありません。」

いちいち何で年齢を言うかな。うざい。

遊佳「ならデュエルしなさいよ。」

大瀧「ウハハハッ、あなたのようなガキがこの私に勝てると思って  
いるんですか!。」

ーブチッ!

あかり『あつ、マスターがキレた。まあなんでもガキって言われた  
ら切れるよね。』

遊佳「おいつ、デュエルしろよ。」

## 第10話 乃亜編突入！！（後書き）

アウス『今回は僕が担当だよ。』

だから何で…………。

アウス『マスター、最後が蟹みたいになっていたよ。』

まあまあ。

さて、次回は遊佳VS変態ペンギンです。

アウス『変態ペンギン大丈夫かな？』

ここは主人公を心配しようね。

それでは、

アウス・作者「『次回もお楽しみに！！』」

## 番外編クリスマススペシャル（前書き）

今回はクリスマススペシャル!!

遊佳「あたしの転生前のお話です。」

では、

遊佳・作者「どうぞー!!」「」

## 番外編クリスマススペシャル

―冬のある日―

遊佳「あゝ、寒い。学校って面倒だな。いつそのことなくなればいいのに。」

火蓮「たしかにね。そしたらずっとデュエルが出来るのにね。」

遊佳「このデュエル馬鹿。あんた弱いくせに。」

相変わらずの毎日。

いつも学校の登校中は必ずこの話題が出てくる。

遊佳「どうせだから学校に放火しようか。」

火蓮「っ！いやいや、それはさすがにダメだろ！！」

遊佳「やるわけないだろ。この馬鹿。」

何で本気にするかな。

本当に馬鹿だな。

遊佳「はあ、学校がつまらなさすぎる。」

火蓮「たしかにね。アニメみたいに学校でもデュエルがOKだったらしいのにね。」



遊佳「爆弾で学校を吹き飛ばしたいな。」

爆弾を時限爆弾にして授業中に爆発させて自分達も巻き込まれま  
したってすれば。」

火蓮「それなら、ばれないかもね。」

遊佳「そんな事出来るか。この馬鹿鹿。この馬鹿男（○徳 ○子）  
め。」

火蓮「どこの聖○ 太○だよ！！あたしは女だ！！」

そんな話をしながら学校に到着。

火蓮とは別のクラスだから部活で会う約束をしている。

でも今日は成績が渡されるためお昼で授業は終わり。その後部活  
だ。

同じクラスじゃないから一緒には食べれない。

そのため1人で食べる。

……………つまらんな。

午後2時

火蓮「やばい、5が無いよ。」

この学校は成績が1〜5まである。5が無いのは最悪だ。

遊佳「まったく、あれほど勉強しろって言ったでしょ。」

火蓮「うゝ、じゃあ遊佳はどうだった？」

遊佳「5教科オール5。」

火蓮「聞くんじゃ無かった!!!」

はあ、まったく騒がしい奴。

真紅「何してんだ？」

遊佳「あれっ、レッドじゃん。どうしたのこんなところで。」

また部活でうまくいなくて先輩に「たるんでるぞ!!」グラウンド  
100周走ってこい!!!」

なんて言われたの？」

真紅「んなわけあるか!!第一そんな事言われたことも無いわ!!」  
「」

遊佳「冗談冗談。」

真紅「まったく。それよりお前ら部活は？」

遊佳「サボったに決まってんじゃん。」

真紅・火蓮「勝手に決めるな!!!」  
「」

遊佳「息合ってんじゃん。」

やっぱりこいつらをからかうのは楽しいや。  
(笑)

真紅「それより、また今年もやるのか？」

火蓮「やるに決まってるだろ!!」

遊佳「じゃ、明日レッドの家でね。」

真紅・火蓮「OK!!」

そんなわけで今日も1日が終わった。  
明日が楽しみだ。

## 次の日

遊佳・火蓮「お邪魔します。」

真紅「邪魔するなら帰れ。」

遊佳「うん、分かった。それじゃ。」

真紅「ちよっ、待てよ。嘘に決まってる!!」

遊佳「冗談冗談。」

やっぱり楽しいや。(笑)

火蓮「よっしゃ、早速デュエルだ!!」

遊佳「黙れデュエル馬鹿!!順序つてものを考える!!」

火蓮「え〜。」

まったく、どこのガキだよ。

真紅「ところでその大きな鞆何入っているの?」

遊佳「これだよ。」

火蓮「?何これ、箱?」

遊佳「開けてみな。」

火蓮が我慢しきれずにもう開けちゃった。  
せっかちだな。

火蓮「うわぁ、これってケーキ？ 凄い。」

真紅「まさかの手作り？」

遊佳「そうだけど。後、これ。2人にプレゼント。」

火蓮「やった、あたしの欲しかった極星だ！！ありがとう！！」

真紅「こっちはチューニング・サポーターじゃん。サンキュー！！」

遊佳「さて、それじゃ……」

遊佳・火蓮・真紅「」「メリークリスマス！！」「」

遊佳「クリッターをリリースして ブラック・マジシャン・ガ

ールをアドバンス召喚。

さらに 師弟の絆を発動。来い、ブラック・マジシャン ！！」

火蓮 LP 3000

遊佳 LP 10000

遊佳

場 カオス・ソーサラー      ブラック・マジシャン      ブラック・  
マジシャン・ガール

伏せカード 3枚

手札 4枚

火蓮

場 無し

伏せカード 3枚

手札 2枚

火蓮「何でこうなるのー！」



俺は手札から ボルト・ヘッジホッグ を捨てて クイック・シンクロン を特殊召喚！

さらに ボルト・ヘッジホッグ の効果発動「あなたの説明は回りくどくて長つたらしいから略して。効果ぐらいは知ってるから。」

分かったよ。 ボルト・ヘッジホッグ を特殊召喚！

レベル5の クイック・シンクロン に、レベル2の ボルト・ヘッジホッグ をチューニングー！

世界の平和を守るため勇気と力をドッキング、シンクロ召喚！現れよ ブラック・ローズ・ドラゴ ー！！  
カードを2枚伏せ、ターン終了だ。」

突っ込まないようにしたいが、やはり突っ込んでやる。

遊佳「チューニングの順番ちがうし。

それに、何でいちいち言うんだよ。しかもそれはパワーツール・ドラゴンのセリフだし。

今すぐエクストラデッキに入ってるパワーツールに謝れよ。失礼だろーが。」

真紅「えっ、何か、ごめん…………。」

遊佳「よし。ならあたしのターン、ドロー。

何かごめんね。 火霊使いヒータ を召喚して ワンダー・ワンド を装備、そして破壊。」

真紅「何回この効果でヒータを殺してんだよー！！」

遊佳「何そんなに怒ってんのよ。まさか、ヒータのことがすくーん



なわけあるかよー!!」まあそれは置いて「置いておくなー!!」  
「カードを2枚ドロする。」「無視すんなー!!!!」  
カードを3枚伏せてターンエンド。」

真紅「つたく。俺のターンドロ。  
行くぜ!!」ブラック・ローズ・ドラゴン でダイレクトアタ「  
炸裂装甲」うわあああ!!!!」

煩い奴だな。  
早く終わらせたい。

遊佳「ターンエンドか?」

真紅「くっ!ターンエンドだ。」

遊佳「あたしのターン、ドロ。 モンスターをセット、ターンエンド。」

真紅「よっしゃ、俺のターン、ドロ。」

スピード・ウォリアー (ATK 900) を召喚。 行けっ、伏  
せモンスターに攻撃だ!!  
さらに スピード・ウォリアー の効果により攻撃力を倍増だー!  
「」

遊佳「 ライトロード・プリーストジェニス (DEF 2100)  
。」

君は実に馬鹿だなあ。」

真紅 LP3700

真紅「それを言うのは何回目やー！！  
くそっ、ターンエンド。」

遊佳「あたしのターン、ドロー。」

ダーク・リゾネーター（ATK 1300）を召喚。  
レベル4 ライトロード・プリーストジェニス にレベル3 ダーク・リゾネーター をチューニング。

シンクロ召喚！来い エンシメント・フェアリー・ドラゴン（ATK 2100）！！

さらに墓地の光属性、闇属性を除外し カオス・ソーサラー（ATK 2300）を特殊召喚。

そして リロード 発動。手札2枚を戻し、その後2枚ドロー。」

は、事故った。仕方ない。  
あんまり使いたくないけど。仕方ない。

遊佳「手札抹殺 を発動。あたしは2枚捨て、2枚ドロー。」

真紅「くっ、俺は3枚捨て、3枚ドロー。（せっかくいい手札だったのに。）」

やった、いいカードが来た！！

遊佳「あたしは魔法カード 一族の結束 を発動！！  
さっきの手札抹殺で魔法使い族が落ちたからね。助かったよ。（い  
つも使わないけど。）」

真紅「くっ、（伏せカードはミラフォだ。まだいける!!）」

あいつのことだから多分ミラフォを伏せてるな。  
だけどそれも無駄だぜ。

遊佳「リバースカードオープン魔法カード 二重召喚 発動。  
これでもう一度召喚が出来る。後、伏せていた 魔法族の結界を  
発動。

サニー・ピクシー を召喚。 カオス・ソーサラー の効果。  
ウォリアーさん、退場してください。」

真紅「そんな!!」

遊佳「まだだ。レベル6 カオス・ソーサラー にレベル1 サニ  
ー・ピクシー をチューニング。  
来い エンシエント・ホーリー・ワイバーン  
サニーちゃんの効果発動。」

真紅「サニーちゃんってなんだよ。（気持ち悪い。）」

遊佳「今思いついた。まあライフを1000回復。」

遊佳 LP5000

遊佳「ホーリーワイバーンの効果。攻撃力1300アップ。さらに  
大寒波 発動!!」

真紅「何っ！！そのカードは」

遊佳「そう、効果により魔法、罠カードは発動もセットも出来ない。  
次のあたしのドローフエイズまでね。さあ、とどめだ全モンスター  
でダイレクトアタック！！」

真紅「くそーーーー！！」

真紅 LP - 1200

真紅「つてか一族の結束意味ないじゃん！！！」

遊佳「たしかにね（笑）」

火蓮「もう5時30分じゃん。」

遊佳「そろそろ帰らないと暗くなるね。」

真紅「じゃ、またな。」

火蓮「バイバイ。」

遊佳「それじゃ。」

これでクリスマス会は終わった。  
時が流れるのは早いな。  
もっと楽しみたかった。

あかり『……………』っていう感じかな。

マスター『って転生前も転生後も変わらないね。』

アウス『確かに。』

ライティ『転生前はもっと楽しそうだったよ。』

ナイト『転生前でも後でも主は主だ。』

遊佳『（どうかした？）』

ナイト『いえ、何でもありません。』

遊佳「（そう、みんないくよ。）」

『『『はい！！』』』

あかり『やっぱりマスターはマスターだ。』

誰もこの時は気がついていなかった。  
この先すぐに再開できると………………。。

## 番外編クリスマススペシャル（後書き）

ではここで簡単にキャラ紹介。

森野<sup>もりの</sup> 火蓮<sup>かれん</sup>

性別 女

使用デッキ BFデッキ 極星デッキ

詳細

いつも遊佳と一緒にデュエルをするデュエル仲間。  
いつも突っ込んで行ってしまう。

葉月<sup>はづき</sup> 真紅<sup>しんぐ</sup>

性別 男

詳細

火蓮と同じく遊佳のデュエル仲間。  
3人のなかでは一番冷静である。  
あだ名でレッドと呼ばれている。

まあ、こんな感じですね。

遊佳「それでは感想やアドバイス等よろしく願いします。

お願いします。



## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4279w/>

---

遊戯王 転生者の生きる道

2011年12月25日15時50分発行